

東京海洋大学越中島会館の復原研究

Keywords

東京海洋大学 水産講習所
農林水産業関連施設 教育施設

1. 研究概要

1.1 研究背景と目的

近代化の過程で産業に関わった建造物は人々の営みを示す重要な遺産となっているが、近年では数多くの価値ある建造物が姿を消した。文化財保護の分野においてはそれら建造物を保存・活用することが重要課題の一つとなっている。

東京海洋大学越中島会館は昭和 8 年に水産講習所本館として建てられ、水産教育を行う施設として我が国の水産業の近代化の役割を果たした。その後、東京商船大学の教室棟として活用され、現在は東京海洋大学の学生会館として使用されている。しかし、利便性のための改修によって建物は現代的建物に姿を変えつつある。本研究では東京海洋大学越中島会館の建設当初の姿の復原を行い、建築的観点から水産講習所としての位置付けを明確にし、その遺産的価値を見出すことを目的とする。

1.2 研究方法

- ①東京海洋大学越中島会館に関する資料から水産講習所の変遷を探る。
- ②実測調査や改修資料をもとに建物の図面を作成し、3 次元 CAD で復原を行う。
- ③文化財の中から「農林水産業関連施設」「教育施設」をピックアップし、それぞれを比較することで建築的観点から東京海洋大学越中島会館の位置付けを考察する。
- ④建設当時の建築関連の法令や歴史的背景を調べ、東京海洋大学越中島会館の平面計画と照らし合わせその評価を行う。

2. 東京海洋大学越中島会館について

2.1 東京海洋大学の概要

東京海洋大学は平成 15 年に東京商船大学と東京水産大学が統合して設置された大学である。平成 16 年からは国立大学法人東京海洋大学として、教育・研究・社会連携を一層進めながら変革に取り組んでいる。なお、平成 19 年に芝浦工業大学と包括連携協力協定を結んでいる。キャンパスは越中島と品川にあり、それぞれ東京商船大学と東京水産大学の旧キャンパスである。越中島キャンパスには越中島会館の他に 1 号館、先端科学技術研究センター、旧天体観測所（第一観測所、第二観測所）が登録



K06108 山根拓大

有形文化財となっており、帆付汽船の明治丸は重要文化財となっている。

2.2 越中島会館の変遷

表 1 越中島会館の変遷

明治21年	大日本水産会の提唱により水産技術者の養成を目的として水産伝習所が設立される。
明治26年	水産振興の基礎となる試験・調査の資料を得るために水産伝習所を引き継ぐ水産講習所が農商務省に設置される。水産講習所は伝習部と試験部の両部から成る。
明治35年	深川越中島八番街に東京商船大学と並んで校舎が建設された。
大正12年	関東大震災で校舎が全壊する。応急処置として、仮校舎を借用して授業を行った。その後、バラックの仮校舎を建設する。
昭和4年	「管制の改正」により、水産講習所がそれまでもっていた試験部門を独立させ国立水産試験場とし、水産講習所は教育機関として専念する。
昭和8年	新校舎が建設され、その後も学生食堂や図書館本室などの校舎施設が次々と建設される。
昭和20年	越中島校舎が米軍に接収される。その後、水産講習所としては使用されることはなかった。
昭和35年	東京商船大学の交渉により、水産講習所地区は明け渡され、同大学の所管となる。
平成8年	大改修により教職員及び学生の福利厚生施設となる。

2.3 越中島会館の前身建物

明治時代の校舎は水産講習所本館として明治 35 年に陸軍越中島訓練場跡地に東京商船学校と並んで建設された。木造の校舎は 2 階建てで堂々たる外観を呈する建物であった。中央廊下の西側は所長室、教官室、事務室があり、教室は階上階下とも 60 人定員の部屋 14 室、他に物理、化学の特別室が 2 つあった。中央部の平屋建校舎は東半分が養殖、動物学実験室で、西半分は製造科、分析化学、化学実験室、海岸寄りの平屋建校舎は実習室で及び教官室、西側は製缶実習室、製塩、油蠟、缶詰実習室、汽缶室にあてられた。



図 1 明治 35 年建設の水産講習所本館

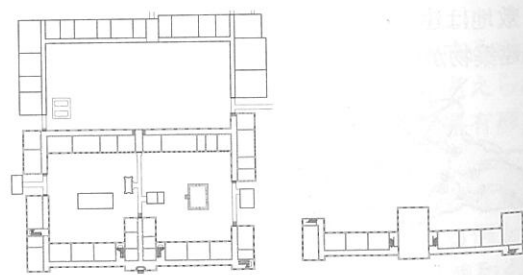


図 2 明治 35 年建設の水産講習所本館平面図

大正 12 年の関東大震災により、水産講習所本館は隣の東京商船学校と共に全壊した。昭和 8 年に再建された新校舎は鉄筋コンクリートの耐火耐震 2 階建てで堂々とした偉容を示した。1 階には周りを取り囲むように物理学・化学の教室・実験室が並び、中央部には学生課や庶務課などがある。2 階には植物学・動物学などの専門教室と一般教室、中央部には講堂がある。



図 3 昭和 8 年建設の水産講習所本館

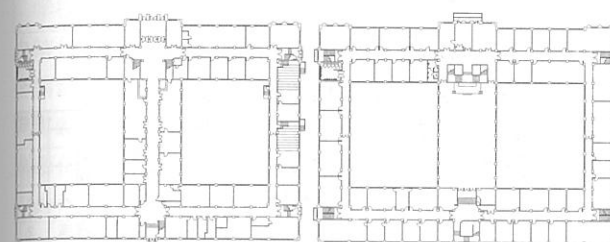


図 4 昭和 8 年建設の水産講習所本館平面図

2.4 越中島会館の概要



表 2 建築概要

名称	東京海洋大学越中島会館 (登録有形文化財)
竣工 所在 設計 構造 建築面積	昭和8年(1933年) 東京都江東区越中島2-1-6 文部省・大蔵省 鉄筋コンクリート造2階建 2269㎡

図 5 越中島会館正面

左右対称型の簡素な外観で、外壁は当時流行したスクラッチタイル貼である。玄関部分の六角形エッジのバットレス状の部材や幾何学的装飾はアール・デコを基調としている。内部は装飾らしき装飾がほとんどなく、完成時は極めてモダンな建物であった。

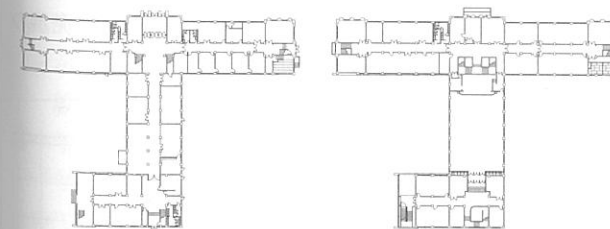


図 6 越中島会館平面図

2.5 越中島会館の減築について

越中島会館は長年の使用による老朽化が進み、改修を要望していたが、長い間予算化には至らなかった。ようやく予算化され、平成 10 年新築予定で解体されることになったが、解体に必要な予算が得られず、文部省（現文部科学省）からの改修の経費の予算措置として平成 8 年に改修が行われた。当時の旧東京商船大学には食堂や購

買などの施設がなかったため、福利厚生施設へ用途を変更したが、福利厚生施設として使うには文部省が定める「面積基準」を超えるため、大幅な減築が行われた。

2.6 越中島キャンパスの変遷

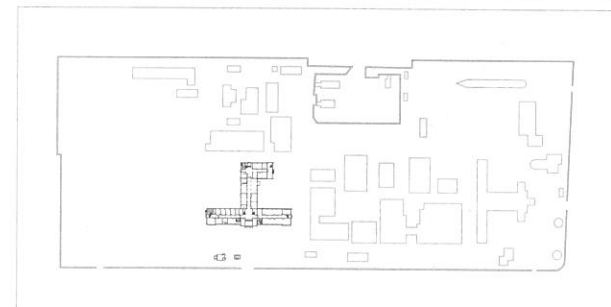
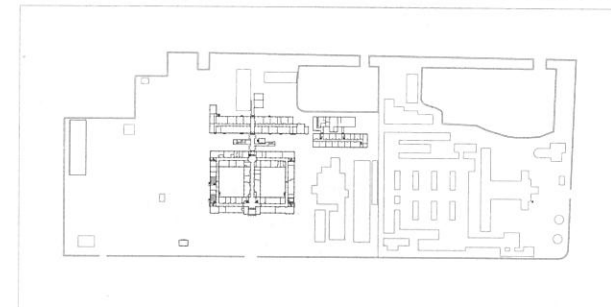
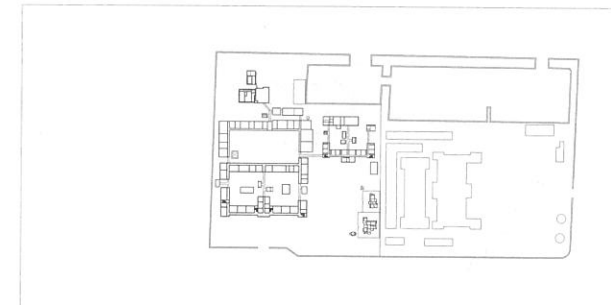


図 7 越中島キャンパス敷地図

明治 42 年(上段) 昭和 11 年(中段) 平成 21 年(下段)

水産講習所側には明治 35 年建設の本館を中心に寄宿舍、官舎などが立ち並ぶ。東京商船学校側には校舎が建ち並び、校門の近くには明治 36 年建設の第一・第二天体観測所がある。(図 7 上段)

大正 12 年の関東大震災で水産講習所、東京商船学校の施設は全壊する。応急処置でバラックの校舎が建てられ、その後、昭和 7 年に東京高等商船学校側に校舎本館、図書館本館が建設され、昭和 8 年に水産講習所側に校舎本館が建設される。(図 7 中段)

水産講習所側は昭和 20 年に米軍に接収されるが、昭和 35 年に東京商船大学の交渉により水産講習所側は米軍から明け渡され、水産講習所本館は同大学の 2 号館として使用され始める。東京商船大学側のドックは埋め立てられ、その跡地には明治丸が定置されている。平成 8 年に 2 号館の改修を行い現越中島会館となり、今まであった学生食堂の代わりに、食堂や購買などを有する福利厚生施設として使用される。(図 7 下段)

